

東三河振興ビジョン【主要プロジェクト推進プラン】～広域観光の推進～ 平成 25 年度の目標達成状況と主な取組の進捗状況について

I 作成の趣旨

本資料は、平成 25 年 3 月に策定した東三河振興ビジョン【主要プロジェクト推進プラン】～広域観光の推進～ に掲げられている目標の達成状況及び同プランに基づき実施する主な取組の進捗状況を東三河ビジョン協議会でとりまとめ、点検・公表するとともに、同プランのさらなる推進を図っていくためにまとめたものです。

II 目標の達成状況

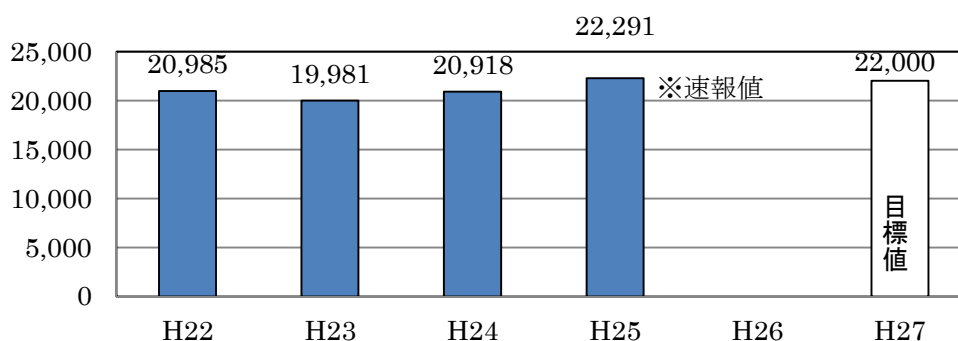
東三河振興ビジョン【主要プロジェクト推進プラン】～広域観光の推進～ に掲げる 3 つの目標の達成状況は、次表のとおりです。

項目	数値目標	計画当初	達成状況
目標 1 観光客入込数の増加	22,000 千人 (平成 27 年)	20,985 千人 (平成 22 年)	22,291 千人 (平成 25 年)
目標 2 宿泊者数の増加	2,000 千人 (平成 27 年)	1,706 千人 (平成 21 年)	1,681 千人 (平成 25 年)
目標 3 観光ボランティアガイド数の増加	180 人 (平成 28 年 1 月)	155 人 (平成 24 年 6 月)	161 人 (平成 26 年 4 月)

1 観光客入込数

- 観光客入込数については、平成 22 年から約 100 万人増加させ、平成 27 年には 2,200 万人とすることを目標としています。
- 平成 25 年の観光客入込数は、2,229 万人となり、平成 22 年から 131 万人増加しました。
- これは、58 万人が来場した「B-1 グランプリ in 豊川」を始め、規模を拡大し、来場者数の増加が著しい「新城ラリー」や「みかわ de オンパク」などの広域的インパクトのあるイベントの展開が、地域全体の観光客入込数の増加につながったものと考えられます。

観光客入込数の推移と目標値(千人)

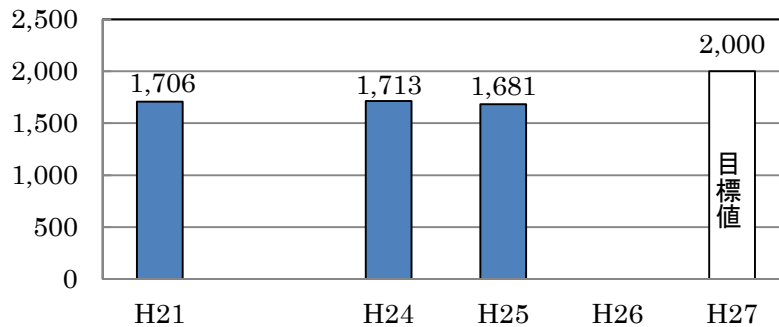


2 宿泊者数

- 宿泊者数については、平成 21 年から約 30 万人増加させ、平成 27 年には 200 万人とすることを目標としています。
- 平成 25 年の宿泊者数は、168 万人となり、平成 21 年から 2 万 5 千人、平成 24 年から 3 万 2 千人減少しました。

- これは、豊橋市及び豊川市で B-1 開催時期の宿泊者が増加したものの、田原市内の大規模宿泊施設の改築工事に伴う宿泊者の減少の影響が大きいものと考えられます。

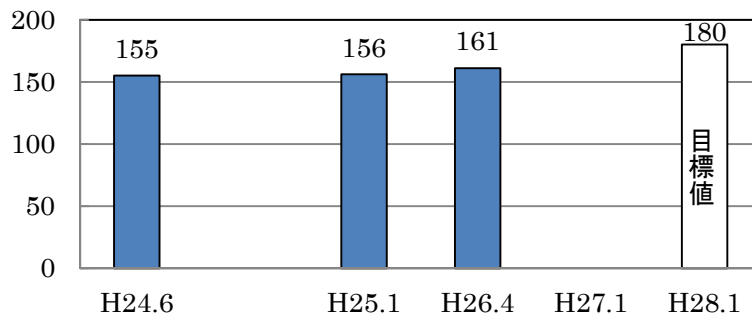
宿泊者数の推移と目標値(千人)



3 観光ボランティアガイド数

- 観光ボランティアガイド数については、平成 24 年 6 月時点から約 16%増加させ、平成 28 年 1 月には 180 人とすることを目標としています。
- 平成 26 年 4 月の観光ボランティアガイド数は、161 人となり、平成 24 年 6 月から 4%増加しました。
- 今後は、「B-1 グランプリ in 豊川」の約 5,000 人の運営ボランティアを始め各イベントやスポーツ大会、またテレビドラマでのエキストラなどの市民のボランティア意識の高まりを、観光ボランティアガイドの育成へとつなげていくことが期待されます。

観光ボランティアガイド数の推移と目標値(人)



Ⅲ 広域観光のさらなる推進に向けて

- 「B-1 グランプリ in 豊川」の成功を導いた「先導者が旗振り役となって、地域一体で盛り上げていく」B-1 方式を継承・発展させて、東三河の広域観光のさらなる推進に結び付けていくことが求められます。
- 新東名高速道路の新城 IC(仮称)の供用開始が近づき、国道 23 号バイパスの整備が進む中で、こうした交通基盤の整備効果を的確に受け止め、東三河の魅力の向上・発信に活かしていくためには、広域観光エリアとしての周遊性を一層高めつつ、地域一体となったプロモーションを強化していくことが必要です。
- 平成 26 年度に策定する主要プロジェクト推進プランのテーマとなっている「スポーツ大会を活かした地域振興」や「地域連携事業の戦略展開」は、「広域観光の推進」とも深く関わることから、その策定に当たっては、広域観光の推進体制をより実効性の高いものに強化していくという観点も重要です。

IV 平成 25 年度の主な取組の進捗状況

1 広域観光エリアとしての魅力の向上

(1) 多様な地域資源の磨き上げ

<県> 伊良湖休暇村公園施設整備

- 自然公園内の伊良湖休暇村公園施設において、全国初となる、砂丘とオアシス（湧水）の再生をテーマとした公園を、東三河の観光拠点として平成 29 年度完成をめざし、現在整備中。平成 26 年 10 月に一部のエリアを供用開始する。



(完成イメージ)

<豊橋市> 穂の国とよはし芸術劇場「プラット」開館

- 平成 25 年 4 月 30 日に開館し、芸術文化の拠点施設として東三河市民に広く利用されている。
 - ・来館者数：186,792 人(オープン平成 25 年 4 月 30 日～平成 26 年 3 月 31 日現在)



(穂の国とよはし芸術劇場「プラット」)

<田原市> 蔵王山展望台等活性化計画策定業務

- 三河湾を一望できる蔵王山展望台の魅力を高めるため、リニューアルのための基本計画、実施設計を平成 25 年度に策定。平成 26 年 10 月にリニューアルオープン。

<設楽町> 「地域おこし協力隊」制度の活用

- 平成 25 年 10 月から 1 名を採用、平成 26 年 4 月から新たに 2 名を採用。地域情報収集と発信に従事。平成 26 年度では道の駅を利用した情報発信イベントの実施や特産品の開発などを行う予定。

<東栄町> 「地域おこし協力隊」制度の活用

- 地域おこし協力隊「燈栄隊」は、休耕地を活用した山菜栽培や山菜料理の研究、石窯ピザ作り体験の提供など、東栄町の旬の食材や山菜王国の PR に取り組み、新聞・テレビなど各メディアに取り上げられ、町内外への情報発信にも貢献している。



(地域おこし協力隊「燈栄隊」)

<豊根村>

農業生産～加工システム構築「地域おこし協力隊」制度の活用

- 地域おこし協力隊が遊休農地 1 ha を活用し、とうもろこし、万願寺とうがらし等を生産し、茶臼山高原、道の駅等にて販売した。併せて、特産品のトマトを活用し、トマトジャムを企画・販売した。



(豊根村産のトマトジャム)

＜設楽町商工会＞ S T T 4 8 プロジェクト制度の活用

- 3 町村（設楽町・東栄町・豊根村）の 4 つの商工会（設楽町商工会・津具商工会・東栄町商工会・豊根村商工会）が一体となり、奥三河地域の特産品、観光商品の開発をするなど、活動内容は中日新聞やテレビなど各メディアに取り上げられ地域の P R となっている。



（S T T 4 8 プロジェクト（あげ五平餅））

＜蒲郡市＞＜みかわ de オンパク実行委員会＞ オンパク事業

- 平成 24 年度までは「オンパク in 蒲郡」として開催していたイベントを、今年は開催地域を三河全域に広げ、広域的な事業として展開することができた。
 - ・開催期間：平成 25 年 10 月 5 日（土）～10 日（日）
 - ・参加者数：7,509 人



（みかわ de オンパク）

＜奥三河観光協議会＞たあ〜んと体感奥三河

- 奥三河の各地で開催されている体感イベント 141 プランの紹介。奥三河地域ならではのプログラムで P R。



（たあ〜んと体感奥三河（阿寺の七滝））

＜あいちトリエンナーレ実行委員会＞ モバイル・トリエンナーレの開催

- あいちトリエンナーレ 2013 において、主要会場だけでなく県内各地域で参加アーティストの巡回展示を行うことにより、より多くの人々に現代アートに触れてもらうことができた。（開催地域：豊橋市、東栄町）

■豊橋市開催概要

- ・開催会場：穂の国とよはし芸術劇場プラット
- ・開催期間：平成 25 年 8 月 23 日（金）～25 日（日）
- ・来場者数：2,232 人



（モバイル・トリエンナーレ）
「穂の国とよはし芸術劇場プラット」

■東栄町開催概要

- ・開催会場：旧東部小学校
- ・開催期間：平成 25 年 9 月 27 日（金）～29 日（日）
- ・来場者数：372 人



（モバイル・トリエンナーレ）
「旧東部小学校」

＜東三河広域経済連合会＞ 自動車ブランディング化プロジェクト

- 自動車企業を核として、東三河の観光地、宿泊地をネットワークした広域産業観光モデルコースの作成。製造ラインの見学、流通整備ラインの見学などのモニターツアーを検討。

＜愛知県東三河広域観光協議会＞ 産業観光への取組み

- 新たな産業観光事業の可能性に取り組むべく、産業界の動向に合わせて、全国有数の自動車輸出入港湾である三河港を背景にした誘致誘客の可能性を検討。

＜東三河広域経済連合会＞ 健康な地域社会創造プロジェクト

- 40代～60代の余裕ある女性層をターゲットに同志社大学米井嘉一教授監修による、身体と心をリフレッシュし、日々の忙しさから脱出し、元気ではつらつとした自分に原点回帰するモニターツアーを検討。

(2) 広域観光エリアとしての周遊性の強化

＜豊橋観光コンベンション協会＞

東三河の「食」がきらり！ご当地グルメ再発見モニターツアー事業

- 名古屋駅発着の、東三河ご当地グルメと体験型の日帰りモニターツアーを実施し、尾張地域の人々に東三河地域の観光PRにつながった。

“奥三河の特産品「猪肉（ジビエ）料理」体験と花祭り・志多ら太鼓の観賞”を始め蒲郡の「みかん狩り」、豊橋の特産品「次郎柿狩り」体験や、田原市の「キャベツ狩り」など5つのツアーを実施。

- ・参加者数：計303名



(ジビエ料理 (イノシシ鍋))

＜奥三河観光協議会＞ 奥三河味のお辺路めぐり

- 奥三河の飲食店八十八ヶ所をめぐってご朱印を集めて商品をもたらす企画をスタート。

・実施期間：平成25年10月1日（火）～平成28年9月30日（金）



(パンフレット)

＜西尾市観光協会＞

三河湾国定公園指定55周年記念「GO GO! 三河湾」

- “バス・船で巡る三河湾一周の旅（日帰り）春の花畑コース～伊良湖岬巡り～”を始め4つのツアーを実施。

- ・事業協力：西尾市・蒲郡市・田原市



(菜の花 (田原市))

＜県＞ スポーツ関連事業

○ 新城ラリー

平成 25 年 9 月 22 日（日）に金山総合駅において P R イベント開催。「秋ぴあ」（70,000 部発行）や、「名古屋クオリティ」（50,000 部発行）に P R 記事を掲載。特集ページの抜き刷り 10,000 部を P R イベントや「道の駅」などで配布（新城市では、全戸回覧）。テレビやラジオ、コンビニでのポスター掲示など県の広報媒体を活用し、ラリーの情報発信を実施。メディアで大きく報道されることで、観戦者の裾野拡大や奥三河の魅力発信につながった。



（新城ラリーPR イベント）

○ 新規トレイルランニング大会の立ち上げ支援

コース案の作成など、新規トレイルランニング大会の立ち上げを支援。

＜ええじゃないか豊橋サイクルフェスティバル実行委員会＞ スポーツイベントによる地域活性化

○ 豊橋市神野埠頭で「第 1 回ええじゃないか豊橋サイクルフェスティバル」を開催。関東圏はじめ地域内外から多くの参加者や観戦者が訪れた。

- ・開催期間：平成 26 年 3 月 15 日（土）、16 日（日）
- ・来場者数：約 2,500 人（3 月 15 日/800 人、3 月 16 日/1,700 人）



（第 1 回ええじゃないか豊橋
サイクルフェスティバル）

＜新城市＞ 新城ラリーの開催

○ 第 10 回記念大会として県営新城総合公園に会場を移して開催した。本年度から愛知県による支援が得られ、これまで以上に効果的な事前 P R 活動が行われた結果、日本全国から過去最高の観戦者が来場し、新城市をはじめとする周辺自治体の知名度の向上、及び経済効果が図られた。

- ・開催期間：平成 25 年 10 月 25 日（金）～27 日（日）
- ・来場者数：約 42,000 人



（新城ラリー当日）

＜田原市＞ 2013 はしってみ輪渥美半島「サイクリングマップ」の活用

○ 渥美半島内のお勧めコースを紹介するサイクリングマップを作成し、利用者に配布。利用者に好評で、短期間で配布終了となり、サイクリングを利用した観光ツールとして効果が期待できる。5,000 部を配布。



（サイクリングマップ）

＜県＞ 観光スマートフォンアプリ「ほの国東三河 AR王国」の運用開始

- 観光スポットや観光コースの案内を行う「ほの国東三河観光案内」の他、「花男子」とのコラボコンテンツ「AR花男子」、ご当地キャラクターが飛び出す「ほの国テーマパーク」など東三河の様々な観光地で楽しめる機能を付加し東三河への継続した来訪や周遊を促進。
 - ・ダウンロード数：11,190件（平成25年6月6日～平成26年5月31日）



（ほの国東三河 AR王国）

（3）地域ブランドを構築し、広域観光エリアとしての一体感を醸成

＜愛知県東三河広域観光協議会＞

「ほの国」の普及定着の推進

- 観光展・物産展に出展し、プロモーションに努めた。東三河が一体となり、地域内外の観光展・物産展に出展し、誘致誘客を促進した。



（観光PRポスター）

■「中部いいもの博覧会 in 豊川観光展」

- ・開催期間：平成25年5月4日（土）、5日（日）
- ・来場者：30,000人

その他、「ほの国の観光と物産展」始め5つの観光展・物産展に出展



（中部いいもの博覧会 in 豊川）

＜県＞ 地産地消推進事業

- 「愛知のふるさと食品コンテスト」の開催により県産農林水産物を利用した加工食品の新たな需要を掘り起こし、「地産地消・農商工連携ビジネスフェア」の開催により県産農林水産物を利用した商品の販路開拓を支援し、県産農林水産物の需要拡大を図ることができた。

■地産地消・農商工連携ビジネスフェア

- ・開催日：平成26年2月3日（月）
- ・場所：アイリス愛知（名古屋市中区）
- ・出展者数：82企業・団体（内東三河14企業・団体）
- ・参加者数：717名



（地産地消・農商工連携
ビジネスフェア）

■「愛知のふるさと食品コンテスト」

- ・開催日：平成25年8月9日（金）
- ・場所：県食品工業技術センター（名古屋市西区）
- ・出品数：56食品（内東三河22食品）
- ・最優秀賞：豊橋うずら うずらたま5くん
（豊橋養鶉農業協同組合）



（うずらたま5くん）

＜県＞ 食と緑あいちブランド創出事業

- 都市農村交流に取り組む「茶臼の里組合」や豊橋茶の振興を目指すお茶の生産者に対し、有識者らが、地域資源を組み合わせ提案することや生産者の人柄も含めた情報を積極的に発信していくことの重要性についてアドバイスをを行った。

アドバイスを受けた取組主体が、それぞれ工夫を凝らして取組のアピールや販売促進活動等を行った結果、大手新聞社にイベントの様子や取組の内容が紹介され、PRにつながった。



(「茶臼の里組合」の取組)

2 広域観光エリアとしての魅力の発信

(1) 地域一体となったプロモーションの展開

＜豊橋市＞ 産業プロモーション推進事業

- 首都圏等において観光情報の発信や特産品等の販売を通じ、認知度の向上につながった。

＜田原市＞ 観光PRグループ結成

- 平成25年田原市観光PRグループ「La花ノたみ」を結成。市内・東三河管内のイベントへの出演に加え、国内の様々なイベント、SNS等で田原市のPRを実施。とくに若い世代への地域情報の発信力強化や知名度向上に繋がっている。



(La花ノたみ)

＜県＞ 三河の山里PR促進事業

- 「きてみん！奥三河～Heart to Heart！～」

茶臼山高原で開催し、奥三河の伝統文化等、芸術資源の認知度を上げるとともに、都市と山村との交流人口の拡大を図ることができた。

- ・開催期間：平成25年9月14日(土)、15日(日)
- ・来場者数：約4,000人



(きてみん！奥三河)

- 「三河の山里ハーカツ隊」企画・運營業務

県内各地及び浜松市で、「三河の山里ハーカツ隊」が奥三河地域への誘客及び奥三河特産品の紹介をするPR活動を実施し、PR事業の特典を利用した周遊効果を上げることができた。



(三河の山里ハーカツ隊)

＜県＞ 三河の山里観光・特産品の都市部でのPR促進事業

- 三河山間地域の特産品の提供や観光資源のPR等を行うアンテナショップ「どだくさん」を名古屋市内に設置し、特産品のブランディングや販路拡大及び観光PRを行ったことで都市部と三河山間地域との交流が促進された。
 - ・開設期間：平成25年9月2日（月）～平成26年3月14日（金）



(アンテナショップ「どだくさん」)

＜県＞ ご当地キャラクターを活用した魅力発信事業

- 東三河のご当地キャラクターを活用し、各地域のスポットをPR。
 - ・アクセス件数：5,548件（平成25年3月1日～平成26年6月19日現在）



(東三河ドコドコ動画)

(2) 多様な情報発信媒体の活用促進

＜愛知県東三河広域観光協議会＞ 公式ホームページの改修

- より活用し易く改修し、一層の情報発信強化と充実を図った。



(公式ホームページ)

＜県＞ 穂っとネット東三河の活用

- 東三河の観光情報をウェブページ及びフェイスブックを活用しPR。
 - ・アクセス件数：1,055,595件（平成24年4月1日～平成26年5月31日）



＜県＞

観光スマートフォンアプリ「ほの国東三河 AR王国」の運用開始（再掲）

＜県＞ 花祭ガイドサイトの運用開始

- 国の重要無形民俗文化財に指定されている「花祭」の流れや舞いの種類などを解説するサイトを作成。また、花祭会場に、本サイトのQRコードを掲載した花祭パンフレットやポスターの掲示をすることにより、観光客がスマートフォンやタブレット等で、その場で簡単にアクセスすることが可能となった。これにより、今どのような舞いが行われているか等瞬時にわかるなど、観光客の利便性が向上した。
 - ・アクセス件数：7,239件（平成25年4月～平成26年3月）



(花祭ガイドサイト)

＜愛知県東三河広域観光協議会＞ ロケ誘致支援事業

- 「ほの国東三河ロケ応援団」は、東三河地域の豊かな自然や歴史・文化等の魅力あるロケ地の提供と、恵まれた立地特性を生かしロケ誘致を実施している。TVドラマ「みんな！エスパーだよ！」や「LEADERSリーダーズ」等により、東三河地域の宣伝効果の向上や来訪者の増加をもたらした。



(ロケ風景(豊橋公会堂))

＜田原市＞ 観光プロモーション映像作成

- 平成26年3月観光プロモーション映像「スマイルTAHARA」を作成。本年4月から三河田原駅での放映のほか、市ホームページ、動画投稿サイトへアップしPRを図っている。
 - ・アクセス件数：371件

(3) イベント・コンベンションの誘致促進

＜B-1グランプリ in 豊川実行委員会＞「第8回B-1グランプリ in 豊川」の開催

大会名称：第8回ご当地グルメでまちおこしの祭典！
B-1グランプリ in 豊川

開催日：平成25年11月9日（土）、10日（日）

会場：豊川稲荷周辺・豊川市野球場周辺

出展団体：ご当地グルメでまちおこし団体連絡協議会
本部加盟64団体（平成25年11月現在）

主催：一般社団法人 ご当地グルメでまちおこし
団体連絡協議会・B-1グランプリ in 豊川
実行委員会



(陸上競技場会場)

来場者数：581,000人（11月9日／323,000人、
11月10日／258,000人）

経済波及効果：35億3277万円と推計

（うち東三河地区への経済波及効果は
20億9542万円（参考数値）と推計）



(豊川市野球場会場)

＜豊川市内商店街振興組合等＞ げんき商店街推進事業 **B-1 関連**

○商店街等が、地域住民・団体等と連携して実施するまちなか活性化事業

「B-1 グランプリ in 豊川」の開催地である中心市街地で、B-1 グランプリを契機にさらなる賑わいを呼び込むため、さまざまな事業を行い、商店街の活性化を図った。



(豊川いなり大駐車場会場)

○アーケード改修事業及びアーケードを活用したイベント

「B-1 グランプリ in 豊川」開催に向け、老朽化したアーケードを魅力ある空間に再整備し、おもてなしの体制を整えた。アーケード改修後は、商店街活性化事業を通じて、地元密着型の商店街であることを広くPRするとともに、商店街の来街者の増加が図られた。



(アーケードの改修)

○B-1 グランプリの知名度を活かして賑わいの創出を図る商店街イベント

賑わいあふれる商店街を創るため、9つの事業を実施。それぞれの事業が「B-1 グランプリ in 豊川」の大イベントを集客の絶好の機会と捉え、商店街等の更なる飛躍への足がかりとした。



(とびっきり！あさひテレビ祭り 2013)

＜愛知県東三河広域観光協議会＞

東三河広域観光B-1 グランプリ支援事業 **B-1 関連**

○ テレビ局主催イベントでの観光物産展開催。県内グルメを集めたイベントの開催。「ほの国」東三河をPRする観光展を併催した。

B-1 グランプリの関連イベントを東三河8市町村合同で実施し、連携して東三河の魅力を全国に発信することができた。



(東三河にまたおいでん祭)

■静岡県の「とびっきり！あさひテレビ祭り 2013」にて東三河への誘致誘客活動を実施。特に「B-1 グランプリ in 豊川」のPRと前売り券の販売。

・開催時期：平成25年9月28日（土）、29日（日） ・来場者数：101,000人

■ラガーナ蒲郡におけるグルメイベント「あいちを食べにおいでん祭」にて東三河と愛知県の地域グルメを中心に、「B-1 グランプリ in 豊川」のPRと前売り券の販売。

・開催時期：平成25年10月5日（土）、6日（日） ・来場者数：20,000人

■自衛隊豊川駐屯地にて「東三河にまたおいでん祭」の併催。

・来場者数：48,000人

＜豊川市＞ 魅力発信とよかわ事業〔緊急雇用創出事業基金事業〕 **B-1 関連**

- 豊川市の魅力をPRするキャラバンを実施。「B-1 グランプリ in 豊川」開催時の併催イベントを実施。
全12回のPRキャラバン及び併催イベントを実施し、豊川市の魅力を効果的に発信することができた。
主な活動内容：県内外各地のイベントや商業施設において、全12回にわたりパンフレットの配布やご当地キャラを使って、豊川市の魅力を効果的に発信した。
 - ・ 隊員数：約9人



(B-1 キャラバン隊)

＜県＞

愛知ご当地グルメ観光PR事業〔緊急雇用創出事業基金事業〕 **B-1 関連**

- B-1 グランプリの併催イベントとして、県内市町村のゆるキャラ、ご当地アイドル等によるステージイベントと観光資源のPRや地元特産品の即売等を行う観光・物産紹介ブースで構成する「魅力発信！あいちフェア」を開催するとともに、県内のご当地グルメを紹介する「あいちグルメガイド」を作成し、会場内で配布した。
数多くの来場者に本県のご当地グルメ及び観光資源をアピールし、回遊を促すことができた。
 - ・ ステージイベント出演者数：18 団体
 - ・ ブース出展者数：32 団体
 - ・ 来場者数：2 日間で約 48,000 人



(魅力発信！あいちフェア)



(魅力発信！あいちフェア)

(4) 圏域を超えた広域連携の推進

＜愛知県東三河広域観光協議会＞

三遠南信・伊勢志摩広域観光交流連携協議会の活動推進

- 東京赤坂の「豊川稲荷東京別院」でのインバウンド旅行エージェント商談会開催などによる、4 圏域への観光客誘致とプロモーションの実施。



(「豊川稲荷東京別院」での商談会・ご祈祷)

＜豊橋商工会議所＞ 伊勢・愛知県豊橋大交流祭「ええじゃないか豊橋行脚隊」

- 伊勢地域との交流事業として、伊勢神宮「外宮奉納市」を始め伊勢各地において豊橋をPRし交流を図った。
 - ・ 開催日：平成25年6月8日(土)、9日(日)
 - ・ 来場者数：13,000人



(伊勢神宮「外宮奉納市」)

＜蒲郡市＞ 岡崎・蒲郡インバウンド推進協議会負担金

- 春節時期の1月31日～2月4日の期間にゴールデンルートのコースにおいて両地域に約1,200名の立ち寄りがなされ、宿泊については、約600名であった。また、繁体字・簡体字向けDVDとパンフレットを作成し、両市の観光協会や観光施設に配布し、PRツールとして活用できるようになった。

主な活動内容：中国本土の旅行者向けに（株）アメガジャパンが発行する情報誌に蒲郡・岡崎両市の観光情報及び春節イベント紹介を掲載。あわせて春節イベント告知チラシを作成し、中国本土の旅行者を通じ、現地旅行者に情報発信を行った。また、繁体字、簡体字のパンフレット及びDVDを作成。



（「ラグーナ蒲郡」での春節イベント）

＜西尾市観光協会＞ 三河湾国定公園指定55周年記念「GO GO!三河湾」（再掲）

＜みかわ de オンパク実行委員会＞ オンパク事業（再掲）

＜県・田原市＞ 鳥羽伊良湖航路活性化協議会負担金

- 鳥羽伊良湖航路活性化総合連携計画に基づく利用促進事業等を行った結果、目標である総旅客人員年間35万人を達成した。
 - ・鳥羽伊良湖航路の利用者数：513,998人



（鳥羽伊良湖航路）

＜豊橋市＞ 東三河ジオパークに関する展示・イベントの開催

- 新城市と連携し、ジオパークと東三河にある多くの特徴的な地形、地質（ジオサイト）について東三河市民に周知することができた。

企画展「東三河のジオサイト」を豊橋市自然史博物館や蒲郡市生命の海科学館、こども未来館で開催。合計78,139人が来場した。

また、シンポジウムや、東三河ジオツアーなどを開催し、合計2,863人が参加した。



（企画展「東三河のジオサイト」）

＜新城市＞ ジオサイト見学ツアーの開催

- 豊橋市と連携し、東三河のジオサイトを巡るジオツアーを開催。ジオサイトの魅力と東三河ジオパーク構想について、東三河市民に周知することができた。「新城市の中央構造線をめぐる」を始めジオサイト見学ツアーを2回実施し、合計79人が参加した。



（ジオサイト見学ツアー）

(5) 海外からの誘客強化

<県・愛知県東三河広域観光協議会>

国際観光推進事業、東アジア観光客誘致促進事業インバウンド誘致事業

- 外国人宿泊者数：平成 24 年 79,244 人→平成 25 年 111,564 人（↑32,320 人増加）
アジア地域の外国人宿泊者数：平成 24 年 73,226 人→H25 年 88,474 人（↑15,248 人増加）
（※上記調査対象自治体：豊橋市、蒲郡市、田原市、新城市、豊根村）

3 広域観光を推進する人・環境・基盤づくり

(1) 観光を支える人材の育成

<豊川市> 観光人材育成事業

- 「B-1 グランプリ in 豊川」では、延べ 4,928 人のボランティア・スタッフが活動した。また、B-1 グランプリ開催に合わせて、ボランティアリーダーを育成し、当日はボランティアの中心となって活動した。



(B-1 グランプリでのボランティア活動)

<新城市>

観光ガイドマニュアル及び観光データ作成事業〔緊急雇用創出事業基金事業〕

- 本地域の代表的な観光資源を取りまとめた観光ガイドマニュアルと観光データベースを使用し、観光ボランティアガイド育成に向けた養成講座等を予定しており、講座開催に向けて関係団体との調整を進めている。



(新城観光 PR)

<田原市> 観光ボランティアガイド育成事業

- 観光ボランティアガイドセミナー（受講者 28 人）を開催。本セミナーの受講者 13 名により平成 26 年 4 月観光ボランティアガイド組織「渥美半島観光ボランティアガイドの会」を設立。今後、ボランティアガイドを活用したツアー造成などに期待できる。

<県> 観光まちづくり推進事業

- 観光まちづくりに取り組む県民を対象として、公募で選ばれた「あいち観光まちづくりゼミ」の参加者が、それぞれの地域の隠れた魅力を紹介する観光コースを企画し、一部はモニターツアーも実施。参加者同士の交流を通じて、観光まちづくりを牽引する人材の育成が図られた。
 - ・参加者数：55 人



(あいち観光まちづくりゼミ)

(2) 美しい景観づくりの推進

＜県＞ 違反屋外広告物の適正化事業

- 屋外広告物の適正化について、県及び東三河の5市の間で意見交換会を開催するとともに、違反屋外広告物に関する予備調査及び適正化に取り組む重点地区の検討を行った。予備調査を実施した市においては、屋外広告物について大まかではあるが実態が把握できた。あわせて意見交換会や各市において重点地区の検討を進める中で、県及び市の担当者の屋外広告物に対する意識の向上が図られた。

(3) 広域観光を支える観光基盤・施設の整備推進

＜蒲郡市＞ 観光交流センター「ナビテラス」管理運営事業

- 以前の観光案内施設に比べ、利用者が約5倍に増えた。さまざまな催事を実施し、多くの人を訪れた。また、市民の会議室利用や、駅利用者の待合など、観光客以外にも使用され、観光客と市民双方が集まる場所となっている。
 - ・ 来館者数：45,095人（オープン平成25年3月17日～1年間）



(ナビテラス)

＜新城市＞ 道の駅「もっくる新城」整備事業

- 新東名の新城IC（仮称）出入り口交差点横に、「奥三河観光ハブステーション」を基本コンセプトとした道の駅「もっくる新城」を建設。平成27年春オープンに向けて現在整備中。



(「もっくる新城」完成予想図)

＜田原市＞ 田原駅周辺整備事業

- 平成25年10月 三河田原駅舎（豊橋鉄道株）・田原市交流ひろば、駅前広場（一部）、都市計画道路田原駅前通り線（萱町交差点・一本橋間 L=330m）供用開始。駅前広場残部分は早期共用に向けて整備中。



(田原市交流ひろば)

＜県・田原市＞ 伊良湖港観光交流拠点整備事業

- 平成26年4月伊良湖緑地を供用開始。
 - 平成26年度緑地（便益施設）、臨港道路植栽を予定。

＜豊根村＞ 道の駅整備事業

- 地域住民からも愛される新たな観光交流拠点を整備コンセプトに現在の道の駅「グリーンポート宮嶋」の建て替えを行う。平成26年度末のオープンに向けて現在整備中。



(グリーンポート宮嶋 (現況))

＜県・市町村・経済団体＞ 国への働きかけ

- 新東名高速道路、三遠南信自動車道、名豊道路、浜松三ヶ日・豊橋道路

＜県＞ 道路整備事業

- 東三河縦貫軸、北設井桁幹線軸

＜新城市＞ 観光二次交通検討事業

- 平成25年10月にモデル事業として湯谷温泉を起点とした「秋の鳳来峡を巡る自転車散歩」を企画したが近隣自治体から三重県、兵庫県まで23名の参加申し込みがあった。(当日天候不良にて中止)湯谷温泉駅を中心としたレンタサイクルの実用化に向けて、今後とも検討を図る。



(鳳来峡)

＜県・田原市＞ 鳥羽伊良湖航路活性化協議会負担金 (再掲)